南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標

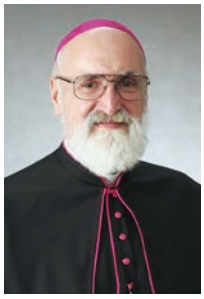
すべての命を守るため、
キリストと共なる
平和の道を歩みましょう。

〒902-0067　那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人　W.F.バーント司教　1部40円
http://www.naha.catholic.jp/

(1) 2020年4月1日（毎月1日発行）　カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ　第737号（4月号）

神に希望をおく人



カトリック那覇教区長
ウェイン・F・バーント司教

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、全世界の新型コロナウイルス感染パンデミックで、復活祭のお祝いムードよりもご家族の健康に関する不安や、ウイルスに対する恐れを深く感じていることと思います。何らかの恐れを抱いている時にお祝いなどできないと思う人は少なくないでしょう。しかし、主の復活をゆっくりと深く黙想するなら、自分の恐れを乗り越える希望の光を見出すことができると思います。

信仰者にとって不安と恐れがある時こそ、復活されたイエス様により頼み、信頼をもって祈ることが大切です。イエス様は十字架を担って、大変な苦しみと孤独な死を受けてから、三日目に復活されました。十字架を担うことは限られた時間でした。その後には復活されました。あたかも全世界は今、新たな感染症の蔓延という十字架を担っているかのようです。けれども、イエスの復活があったように、この苦難の時を乗り越える日が来ると私は信じています。

フランシスコ教皇様はこう言われました。「新型コロナウイルスのパンデミックに対して、全世界の祈りと思いやり、優しさで対抗していきましょう。一致を保ちましょう。独りぼっちで試練に立ち向かっている人々が、わたしたちがともにいることを感じられるようにしましょう。わたしたちは、医師や医療従事者、看護師、ボランティアの皆さんに寄り添います。わたしたちのためとはいえ、厳しい措置を講じなければならない関係当局と、わたしたちはともにいます。わたしたち皆のために政府が求めていることが遂行されるよう、路上で秩序の維持に努めている警察官や兵士の皆さんに寄り添います。わたしたちはすべての人とともにいます」。

日本のカトリック司教団も聖金曜日の盛式共同祈願のために次の祈りを準備しました。

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のために祈りましょう。
神が苦しむ人々を支え、病への恐れと不安を取り除いてくださいますように。
希望のよりどころである神よ、病に苦しむ人に必要な治療を与え、医療に携わる人を感染から守り、亡くなった人を永遠のみ国に迎え入れてください。
ともにいてくださるあなたに支えられ、不安と混乱に襲われた世界が希望を取り戻すことができますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

ところで、今年も復活徹夜祭で入信の秘跡（洗礼・堅信・聖体）を受ける那覇教区の新しい兄弟姉妹がいます。皆さん、おめでとうございます。皆さんは、キリストの死と復活の過ぎ越しの神秘に与かり、古い人に死んで新しい人に生まれ変わりました。新しい人とは、神の命を受けた人、聖霊によって新たに生まれた人、キリストと共に生きる人という意味です。

ですから聖パウロは、洗礼によって「わたしたちは、キリストと共に（罪に）死んだのなら、キリストと共に生きることにもなる」（ローマ六・8）と信仰を告白し、神に希望を置いてキリストと共なる宣教の旅を歩みました。決して苦悩や不安のない旅ではなかったのですが復活の希望に照らされた深い喜びの歩みであり、私たちも聖人と同じ歩みに招かれています。

皆さん、お互いの健康を気遣いながらも恐怖と不安の谷を歩んでいる世界のために、「神に希望をおく人」として復活のキリストの光を見つめながら歩んでいきましょう。イエス・キリストの救いの業によって、神に希望をおく人は恐怖に打ち勝つ力があり、十字架を担った後、必ず復活があると信じます。

主のご復活、おめでとうございます。

“Place Your Hope and Trust in God”

by : Bishop Wayne Francis Berndt, OFM Cap.

With the whole world focused on the Corona Virus pandemic, it may be a little difficult for us to get into the Easter mood this year. Everyone is concerned with the health of their family, and is fearful of the virus spreading among us. Some have said that it is not possible to celebrate Easter because we are so afraid. However, I think that if we take some time to meditate on the Resurrection of the Lord, we may be able to gain the strength needed to overcome our fear and see a ray of light.

It is exactly when we are feeling afraid or anxious that we must trust in the Risen Lord and pray to him. After Jesus bore the cross, and underwent a lonely death, he rose on the third day. He bore the cross for a limited time only. And after that he rose from the dead. In the same way, the world is now bearing the weight of a cross called the corona virus. However, as Jesus was resurrected, I believe that the day will come when we will overcome the corona virus.

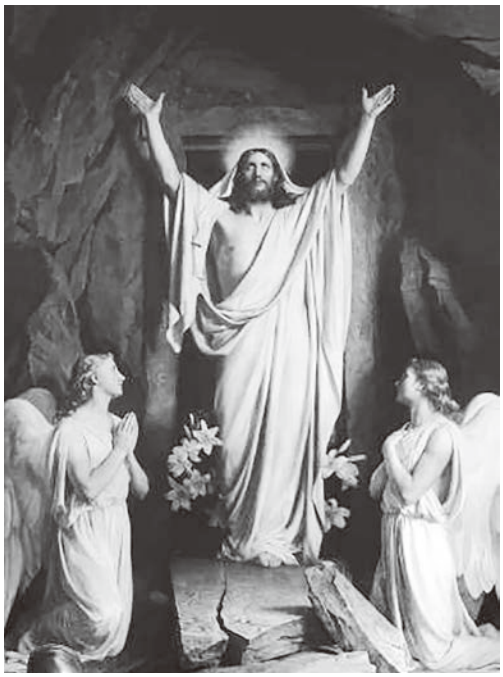
Pope Francis said the following. “As for the pandemic caused by the virus, we want to respond with the universality of prayer, of compassion, of tenderness. Let us remain united. Let us make our closeness felt toward those persons who are lonely and tried. Our closeness to the doctors, the healthcare workers, nurses, volunteers… Our closeness to the authorities who must impose stringent measures, but for our own good. Our closeness to the police, to the soldiers who try always to keep order on the streets, to ensure that the things the government asks to be done for the good of all are implemented. Closeness to all.”

This year as well, during the Easter Vigil, we will be welcoming new brothers and sisters to Naha Diocese through the Sacraments of Initiation: Baptism, Confirmation and Holy Eucharist. My heartfelt congratulations to all of you. You, through participation in the Pascal Mystery of Jesus death and resurrection, have died to the old self, and have been reborn as a new person. The meaning of being reborn as a new person is that you have received new life from God; you have been reborn through the Holy Spirit; and you have pledged to live your life together with Christ. St. Paul states that, through Baptism, “if we have died (to sin) with Christ, we believe that we will also live with him.” (Romans 6:8)

Let us be careful of one another’s health by taking care of ourselves as well. Let us pray for the world which is fearful and anxious. And let us look to the Resurrected Christ, who gives a light to direct our steps away from the valley of fear, to the heavenly gifts of hope and peace.

If we place our hope in God, we will gain the strength to overcome fear, and we will be able to believe that after bearing this cross, there will be a resurrection.

A Blessed Easter to Everyone.



NPO 法人ぶどう園の会
訪問看護ステーション クララ
TEL&FAX:098-937-5001
住所　沖縄市泡瀬2丁目37-15
・基本受付　月曜日～金曜日(申込、相談など)
・営業時間　8:30～17:30
・営 業 日　24時間365日(緊急対応含む)

名護教会創立60周年
献堂５周年記念感謝ミサ

日　時
2020年５月10日(日)
午後２時～

主任司祭　ボスコ・ティン
信徒代表　比嘉　是勝

ニュファ通

福音を信じる人には幸せが来る

ピーター・チャネル・チェ神父
コザ教会主任司祭

皆さん、ご復活おめでとうございます。「復活のキリスト」は信者である私たちの信仰の中心です。イエス様は天に上げられる前に、十一人の弟子に現れて、言われました。「全世界に行ってすべての造られたものに福音を述べ伝えなさい。信じて洗礼を受ける者は救われる」（マルコ十六・15～16）。ですから、福音を述べ伝えるのは何よりも信者の大切な使命なのです。

では、教会が述べ伝える「福音」とは、どんなことを伝えることなのでしょうか。それはイエス様のすばらしい教えです。たとえば、イエス様が話した言葉、行ったこと、みんなと共に生活した様子などです。ではそのことを、なぜ「福音」＝「喜ばしい知らせ」というのでしょうか。それは、イエス様の教えが多くの人々に本当の幸せと喜びをもたらすからです。

また、福音とは何よりもイエス様の受難、死、復活の過ぎ越しの道（神秘）です。ですから、カトリック教会の伝統によって、福音宣教としてまず、毎日過ぎ越しの記念、ミサが行われます。そして、特に、四旬節の間、十字架の道行、断食、愛の行いを大切にしています。

一年に二回の断食があります。それは灰の水曜日と聖金曜日です。そして、毎週の金曜日にはキリストのご受難を思い出して、断食の勧めがあり、聖体拝領の前に一時間の断食も定められています。

断食とは食事を断つ、お腹をすかせるということだけではありません。様々な欲、食べ過ぎに対して、節制、犠牲、献金などをするという広い意味のものです。たとえば、怒らない、悪口を言わない、悪い行いをしない、皆さんと合わせて、犠牲を捧げて祈ることなどです。

また、断食とは悔い改めと罪の償いでもあります。悔い改めの祈りを唱え、罪の償いとして、施しや献金、愛の行いなどです。ですから、断食によって、体が健康になるだけでなく、心もシンプルになって、本当の健康を取り戻し、身も心もよみがえります。そして、何よりも、キリストの供え物にふさわしい心身になります。そうすれば、あの断食に励んだイエス様と共に、復活の希望のうちに過ぎ越しの道を歩めると思います。

ここで、皆さんとあるストリーを分かち合いたいと思います。私の一人の信者でない友達は日曜日ミサに参加しました。

一番後ろの席に座ってお祈りしました。だから、信者たちの顔がよく見えませんでした。ミサの後、信者たちが聖堂から出てきたとき、みんなの顔がとても明るくて、にこにこしているのを見てとても感動しました。

さっそく友達は私のところに来て聞きました。「ピーター、どうして、ミサの後、信者たちはみんな、あんなに笑顔できれいなのですか?」。私はこう答えました。ミサの中で、神様が信者たち一人一人の心を変わらせてくださったからですよ。だから、みんな、きれいな顔になったのですよ」。友達は納得したようで、カトリック教会のごミサがとても素晴らしいと感じ、心が洗われたような気持ちになって、教会を後にしました。

皆さん、ごミサはイエス様が残してくださった一番大きなお恵みです。イエス様と共に与るお恵みの食事会です。だからミサに与るときは、イエス様の過ぎ越しを記念として行い、感謝の祈りと共に供え物をささげることが大切です。ミサの中で奉献の祈りを捧げる場面がありますね。その時、ある供え物が祭壇の食卓にささげられますね。その供え物とはパンとワインです。そのパンとワインは聖霊の働きによって、ご聖体と御血になります。これは信仰の神秘です。同じように、私たちもミサの中で神の力に与って、神さまにふさわしい子どもとなるように、変わらせていただくという恵みが与えられます。そのためには、パンとワインを捧げるだけでなく、いっしょに、自分自身の供え物を捧げることがとても大切です。

（奉納―奉献―変化）供え物としてふさわしいものとは、まず自分自身のこころとからだです。そして自分が大切にしているもの、たとえばお金、時間、将来、才能など自分の宝物です。自分にとって大切なものを捧げるからこそ、それは供え物になって、自分が変えられるというお恵みをいただけるのです。

皆さんは一人ひとり違いますが、ご聖体をいただくことによって一つになるよう変わることができます。そんな人々が集まる教会は、多様な人々の一致と平和のしるしです。どの文化の人であれ、どこの出身の人であれ、キリストの体である教会のかけがえのない一員なのです。

最後になりますが、聖母マリアは神の言葉通りに、御心に従って生涯を生きました。本当に幸せな方です。私たちも、イエス・キリストに従って生きるキリスト者です。聖母マリアがそうであったように、幸せが約束されているのです。ですから、みんな仲良く分かち合って一つになり、共に感謝を捧げて、福音の喜びのうちに過ごしましょう。

2020年3月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2020年3月3日（火）10：00～12：00　開催場所：教区センター

1. 報告及び連絡事項

・前回（1月会議）の議事録に沿って新田が報告と確認。

・新型肺炎予防ガイドラインについてウェイン司教より再度遵守するよう説明がなされた。沖縄では新たな感染例が発生しておらず、より注意深く予防策をとりながらミサはそのまま継続されるようお願いしたい。但し、信徒の不安に応える為に、信徒には引き続き主日のミサに与る義務は免除される。ミサを捧げる司祭には、手洗いの徹底や聖堂内の換気を良くすること、ホスチアは予め準備しておいて、信徒が1人づつホスチアを容器に入れることは控える等のよりきめ細かい対策を講じていただきたい。また、信徒たちへも口での聖体拝領は行わないよう要請し、聖体を授けるときのマスク着用やアルコールで手の消毒を行う等の厳格な対策をお願いしたい。司祭たちは自分たちの健康に留意しながら、現時点ではミサや秘跡の執行には可能な限りの予防策を取ったうえで信徒たちの要望にしっかり応えていただきたい。また、司祭たちからも教会施設の活用法や黙想会指導司祭の招聘等に関連して様々な質疑が行われ、司教からは司祭・助祭として与えられた役割を果たし続けていくこと、信仰の証し人として求める者にしっかりと向き合うように要請があった。

・ウェイン司教より、ミサ奉献文における教皇の呼称変更について説明があった。教皇フランシスコの来日の際、日本の外務省もこれまでの「ローマ法王」を「ローマ教皇」と改めており、奉献文の中で使われてきた「私たちの教父・・・」という表現も、「私たちの教皇・・・」という表現に変更されたことが報告され、遵守するよう要請された。

・宮古で活動されていたONDのSr.Joyが2月27日にフィリピンへ帰国されたことが報告された。

・「性虐待被害者のための祈りと償いの日」（四旬節第二金曜日）のミサについて、3月13日の安里における早朝ミサはこの意向でウェイン司教の司式より捧げられることが報告され、このミサのために用意された典礼式文が司祭たちに配られ、全教会の意向に沿って各小教区でもミサが捧げられるよう要請が行われた。

・3月25日（水）の「神のお告げ」の祝日のミサは、「すべてのいのちを守るため」のミサとして捧げられるよう要請が行われた。

・津波古事務長より、2・11の教区の日の報告が行われた。今回は約300人の参加者があり盛況だったが、今後に向けての要望等があれば事務局まで提案してくれるよう要請があった。

・カテキスタ養成プログラムの新しい担当者に与那原のSr.中村睦子をお願いしたことが報告され、後ほどSr.中村から直接話を伺うことが司教から報告された。

・司教のベトナム訪問に関して、4月に予定していた日程を延期する可能性があることが報告された。

・教区信徒評議会の開催について、5月23日（土）午後1時～4時までの日程で、教区センター（安里）で開催されることが報告された。司教から主任司祭と信徒代表に手紙が送られるので、各教会から代表者1名とカテキスタ志願者１名の参加が要請された。

・6・23慰霊の日の「平和巡礼」について、今年は戦後75年の節目の年となるので、那覇教区の巡礼プログラムに合わせて、日本の全司教が参加して、日本司教協議会会長による平和宣言が行われる予定であることが報告された。司祭たちの協力も必要なので、多くの司祭たちの積極的な参加も合わせて要請された。

・サマーキャンプについて、担当司祭のヨアキム神父より報告が行われた。今年度のキャンプは8月3日（月）～9日（日）の日程で実施されることが報告され、内容はこれから会議を重ねて決定していくことが報告された。

・長崎教会管区司祭集会について、津波古事務長より報告があった。10月19日～21日の日程で鹿児島教区カテドラルのザビエル教会を主会場に、「すべての命を守るために」を具体化していくために話し合いを持ちたい意向であることが報告された。会場周辺に宿泊先も用意されており、司祭は全員参加するよう要請が行われた。

・教区文化センターに開設されるカリタス英会話教室について、担当のマーシーさんから説明が行われた。カリタス・ジャパンの取組みの1つとして、沖縄を訪れる、又は沖縄に滞在する外国籍の方々との交流をより豊かにするため、文化センターで英会話教室を開設することが報告された。まずは近郊の安里、開南、首里の信徒たちに呼びかけて、英会話を学びながら、共に交流していく場として４月18日（土）から月1回で始め、徐々に一般の方にも門戸を開いて行く計画であることが説明された。

・またカリタス・ジャパンが作成した「災害対策マニュアル」を各小教区に配るので、前もって目を通して有効活用されるよう要請があった。また、有事の際の教区の災害対策責任者として、新田が要請された。

（5ページ下へ続く）

那覇教区平和委員会

2月例会の報告

「患者さんから学んだこと」
～縦の軸と横の軸～

介護老人保健施設「あけみおの里」施設長
国立病院機構沖縄病院名誉院長　石川　清司

平和委員会の地道な活動に敬意を表します。

私は、過去約30年間にわたってラサール神父様と共に、「沖縄・生と死と老いをみつめる会」を主宰してきました。「生と死」のテーマに「老い」の問題を含めて、毎月の定例会と年に数回の講演会を企画し開催してきました。

人の「生と死」のテーマを深く追い求める姿勢を「縦の軸」としますと、人間関係、政治・経済、環境の問題等との関わりの中で、「生き方」「在り方」を考え、追求し行動する姿勢を「横の軸」として捉えてみました。この「縦」と「横」の軸は、互いに交錯しながら、その接点でもって十字架を背負って生きることになります。

平和委員会の取り組む辺野古の問題は、軍事力の強化、つまり「抑止力」でもってしては、真の平和を実現することはできないであろうことと、「自然環境」の観点からも阻止しないといけないものと考えております。

自然破壊の観点からしますと、過去に名護の街で過ごしたことがあり、変わり果て、シャッター街と化した現在の名護の町から考えますと、果たして、海岸線を埋め立てて「21世紀の森」としたこの施策は、真に正しかったのであろうかと疑問に思っております。日本列島改造論なるものに踊らされて、貴重な海岸線を埋め立てた時代がありました。

今回は、日常診療の現場からの考察です。診察の現場は、多くの患者さんとの出会いの中に、貴重な物語が展開されていきます。医療をする以上に、患者さんから多くのことを学ぶことができました。

担当した「ハンセン病療養所の患者さん」、「非差別部落の患者さん」からは、人を差別してはいけないことを教えてもらいました。出会った「神経難病の患者さん」は、人は一人では生きていくことはできない、助け合って、支えあって生きることの大切さを教えてくれました。30年、肺がんの診療に従事してきました。多くの「肺がんの患者さん」から、「時」を、「時間」を大切に生きることを教わったような気がしております。

自分史、「視覚障害者の手となり足となりて～中村　文の百年～」には、「生きる意欲は、自らの内部からひとりでに生まれるのではなく、それを期待して待っている人の存在によって引き出されるのではないか」と記されています。映画「あん」の主人公、元ハンセン病のおばあさんはつぶやきます。「私たちは多くの富、高い地位・名誉を得るためにこの世に生まれてきたのではない。喜怒哀楽、悲喜こもごもの現実を見て、聞いて、味わうために生まれてきたのだと・・・」。

大切にしているマザー・テレサの言葉でもって結びます。「思考には気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。言葉には気をつけなさい、それはいつか行動になるから。行動には気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。習慣には気をつけなさい、それはいつか性格になるから。性格には気をつけなさい、それはいつか運命になるから」とあります。

「運命」もまた、多くの出会いの中から生まれてくるもので、振り返ってみると、後ろからついてくるもののような気がしております。「縦軸」と「横軸」の接点で、可能な限り十字架の秘める意味を求めて行きたいと考えております。感謝。

2. 審議事項

・子どもと女性の権利を擁護するデスクの開設について報告があった。毎週火曜、水曜、木曜日の午後１時～５時まで、教区事務所に担当の職員を置いて対応することが報告された。

・上記子どもと女性の権利を擁護するデスクとの関連で「那覇教区が目指す使徒的交わり」というハラスメントに対する宣言文書を発表するので、各小教区で掲示するよう司教から要請があった。

・Sr.中村から、カテキスタ養成プログラムについて、ご自身の経験を踏まえて、どのように取組みを進めていく予定であるかの説明が行われ了承された。5月23日（土）の信徒評議会を経て再スタートとしたいので、司教からのお詫びを添えて、もう一度申込書を提出していただきたい。各小教区から若干名としたいが、より多くの希望者があれば事務局と相談していただきたい。

3. その他

・3月22日（日）午後2時から泡瀬教会においてウェイン司教司式で、ショファイユの幼きイエズス修道会への感謝ミサが捧げられる。

・ラサール神父様が名護市勝山にある「あけみおの里」に入所されたことが、カプチン会地区長のデニス神父から報告された。新型コロナウイルスの影響もあり、復活祭頃までは面会できないことも合わせて報告された。

・石川教会のアジット神父よりコンサートへの参加協力への感謝と会計報告が行われた。

・典礼担当のブイ神父から、聖香油ミサ（4月8日）の際には、前年の残った香油や他の油を持ってきて返却されるよう要請が行われた。また、通常なら第一火曜日４月7日開催の会議は、この聖香油ミサに併せて開催することが決まった。感染拡大の影響を見ながら聖香油ミサの実施方法の変更も含め、日程の詳細は後日通知する。

2020年3月17日　　記録：新田　選　　承認：ウェイン・フランシス・バーント司教

たて軸よこ軸

老人の深い祈りと知恵

安里教会　増田麻実

信仰の有り方を模索する中で、どのように老後を過ごすか考えた。現代のような高齢化社会で、信仰者がどのように老後を過ごすかは大きな課題の一つかもしれない。ある人が分かち合ってくれたことだが、男性は何かをすること（ｄｏｉｎｇ）、老後に何ができるか、できないかの話になる。でも老後で大事なのは、することではなく、いかに有るか（ｂｅｉｎｇ）ではないか。有り方（ｂｅｉｎｇ）そのものが生活の質を示している。

これは性別の問題ではない。女性でも、外で働いて給料をもらう仕事をしてきた人は、男性のように、何をしていいか悩む老後を過ごしているようだ。それに対して、家事や炊事、庭仕事など生活にかかわる仕事をしてきた人は、男女共年をとっても、変わらず生き生きとしているように感じられる。今回は、生きるスタイル（ｂｅｉｎｇ）としての信仰生活を見つめてみたい。

アンナという女預言者がいた。夫に死に別れ、八十四歳になっていた。彼女は神殿を離れず、断食したり祈ったりして、夜も昼も神に仕えていたが、そのとき、近づいて来て神を賛美し、エルサレムの救いを待ち望んでいる人々皆に幼子のことを話した。（ルカ二・36～38）

アンナは夫と死別後八十四歳になっていた。現在の既婚女性には普通の状況である。女性の方が男性より長命なので老後独りに成り易く、八十四歳は現在の日本人女性の平均寿命を下回っている。

アンナが老後をどう過ごしたかというと「彼女は神殿を離れず、断食したり祈ったりしたりして、夜も昼も神に仕えていた」のである。神殿を離れずというのを物理的に考える必要はない。

神殿から離れないとは、神から離れない心の有り方なのだ。だから昼も夜も神に仕えることが可能になる。若い頃この世的な物に気を奪われて、神から離れてしまうのは仕方ない。しかし年をとったら、神に心を向けていく生き方が重要ではないだろうか。どう神に仕えるかというと、「祈ったりして」とある。祈りが中心の生活なのだ。よく言われるが、祈りこそ究極のあり方（ｂｅｉｎｇ）である。祈りは、目に見える何かを産み出す訳ではない。ただ神と共に過ごす事が基本である。祈りにおいて、ただ神と共に在ること（ｂｅｉｎｇ）の喜びと価値を見出すならば、多くの人はもっと祈りに時間を割くことができる。多くの人が、年をとっても忙しくて祈る時間が無いという。

忙しいと言って一番大事な祈りをおろそかにするのは本当にもったいない。老年期には中年期にしていたことしかできないと聞いた。つまり、中年期にしなかったことは、老年期になってから新しく始めてもうまく出来ないのだ。特に、祈りがそうだ。

若い頃にあまり熱心に祈らなかったとしたら、老年期になって熱心に祈ることはできない。若い頃は懸命に働いて、年をとってからゆっくり祈りに時間を割こうというもくろみは失敗する。結局今何歳であったとしても、あり方（ｂｅｉｎｇ）の価値を身につけられるかどうかである。

さらにアンナは断食を捧げている。これも現代に欠けている点ではないか。苦しみを喜んで、積極的に捧げる態度である。信徒も修道者も、この世の流れに合わせてしまい、安逸を貪るようになっていないか。実際、年をとればとるほど不自由な事は増えてくる。目や耳の老化、足腰の衰え、記憶力の低下等。全てを主に捧げる断食に出来る。このような苦しみを喜んで主に差し出すならば、神の前では目に見える活動以上に大きな勲になる。若い人でも様々な病や不自由さを背負っている人は多い。その苦しみを神に捧げる断食にするならば、それは神の前に尊い。そのようにして昼も夜も神に仕えることによって、はっきりとした使命が見えてくる。

アンナの最後の使命は、救いを待ち望む人々に幼子（イエス）について話をすることである。マリアとヨセフが幼子イエスを奉献するため神殿に来た時、この貧しい夫婦の幼子に注目した人は殆どいなかった。気がついたのはシメオンとアンナだけだった。そこに老人の真の知恵がある。どこに救いがあり、どこに希望があるかを知っていて、それを若い人に告げ知らせる役割である。日々の生活が神に仕えることに繋がり、若い世代に対して貢献をしていけること、それが女預言者アンナの示している姿である。この社会でも「救いを待ち望む人々」は多い。

多くの人は悩み苦しんでいる。そういう人々に対して、祈りと断食によってもたらされる救いの言葉を語ることができれば、なんと素晴らしい貢献だろうか。それは預言者の使命そのものである。もちろん信徒がすべて預言者である訳ではない。でも私達先輩信仰者は、次の世代の信仰に責任を負っているのも事実である。「聞いた事のない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう」（ローマ十・14）というパウロの言葉は真実である。

語り継ぐのが難しい時代であるからこそ、言葉だけでなく、生き方・あり方（ｂｅｉｎｇ）を通して、神の愛を伝えていきたいものだ。

教区NEWS 教会

司教様公式訪問

石川教会

三月十五日！うららかな春日にふさわしい司教様の公式訪問日でした。司教様はさわやかな笑顔を浮かべつつ入っていらっしゃり、にぎやかな拍手でお迎えしました。沖縄全域の那覇教区を掌握しなければならない司教様はどんなにか多忙かと思いますが、私たちは司教様にお会いしたいためにいろいろと考えて公式訪問の計画をしました。

ご多忙の中、いらっしゃってくださる今日の日は、決して忘れることはできないと感謝の念でいっぱいです。ありがとうございました。御ミサも捧げてくださったので、普段の日とは全く違う一日になりました。

御ミサは、心地良いやさしい声に満たされて、静かに集中できる雰囲気の中で進められ、お説教は、イエス様とサマリアの女との話を語り掛けるようにお話してくださいました。福音書は読んでも難しいし、理解できる場面ではないので、司教様のお話しは講話を聞いているような、ずっしりと心に響く深い内容のお話しでした。

サマリアは地方で、周辺の人々と交際をせず、目に見えない壁をつくって意思疎通ができない状態だったということで、イエス様との対話も一方通行で断絶していた。しかし、イエス様はサマリアの女がやった事や言葉をすべて言い当てた。

すると一方通行だった話しが伝わるようになって、サマリアの女はありのままに答え始めて、最終的には「この方がメシアだ」と信仰宣言をして、サマリアの人たちを救いへと導いていきました。このように福音書を解説くださって、心を開いて聞くことが今でも大切だと言うことを理解することができました。

懇親会では、石川教会の抱える問題点を出して、検討しました。橋渡しをしてくれる信徒会長も、明るく好印象で私たちの代弁を果たしてくれました。

司教様は難問を一つ一つ聞いてくださり、じっくり考えて語り掛けるように話してくださいました。この問題は時間をかけてゆっくり検討しなければならないとお話してくださいました。どれも解決が難しいのでやむを得ないと思います。一同、納得をしました。司教様、ありがとうございました。

（仲本百子通信員）

ありがとうシスター たち！

泡瀬教会

ショファイユの幼きイエズス修道会（日本管区長・シスター南谷豊子）は、一九六〇年の来沖以来、那覇教区で活動して来られましたが、今年三月をもって一区切りをつけることになりました。

フェリックス・レイ教区長の招きを受け、泡瀬教会（沖縄市）の一角に修道院を構え、約六〇年間に四十数名の会員が派遣されました。中には数度赴任されたシスターもおられます。

歴代の司教、主任司祭、信徒の皆さんと共に泡瀬、コザ両教会でのカテキスタ、教区サマーキャンプのお世話等々、宣教や司牧活動に励み、そして泡瀬聖母、コザ聖母両幼稚園の運営も引き受け、その活動は多岐にわたり、那覇教区の発展に大きく寄与されました。

また、その間には沖縄出身の会員が十一名誕生し、修道者への召命にも大きな励ましとなっています。その中には、より貧しい人々へ奉仕する同会の使命により、日本国内ばかりでなく、海外で活躍中の方もおられます。

三月二十二日には、ウェイン・F・バーント司教、押川壽夫司教、谷大二司教、十名余の司祭、終身助祭による感謝のミサが、近隣の教会や幼稚園の職員らも大勢参加して捧げられました。その後は、語りつくせない思い出を分かち合い、感謝の言葉と共に、再びの派遣を期待する声も多くありました。

なお、同会支援のため共に祈りに活動する信徒の集い（アソシエ）は、これからも毎月続けられ、担当のシスターが訪れて年に数度は交流の機会があるとのことで、会員を募集しています。ご希望の方はご連絡ください（泡瀬教会＝098-937-3598）。

（山田圭吾）

イチゴ狩り

普天間教会

好天に恵まれ、去る二月二十二日（土）にメンバーが提供して下さった大型の車四台に分乗して、感謝のうちにイチゴ狩りに出かけました。

お互い教会員のコミュニケーションを図る中で、心合わせて一致を目指したいナヴィン神父

様の思いと石原会長の協力で、この企画が実現しました。

イチゴ狩りは殆どの方が初めての体験で、もぎ立てのイチゴのおいしさと、もぎ取る時の喜びに歓声をあげました。その日、最も貴重な企画は、イチゴ狩りもさることながら、ミサを与那原教会で捧げ、昼食を与那原修道院のシスター方にお願いした事でした。シスターの皆様には、ご迷惑やご面倒をおかけしましたが、よそでランチをするより、シスター方との交流をしながらランチを楽しみたいとの思いでした。思いはその通りに運び、

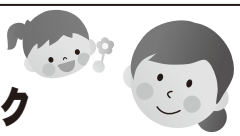
シスターの皆様は、おいしいランチを作って下さり、私たちを笑顔いっぱいで歓迎してくださいました。ほんとに心から感謝でした。

島添大里城跡に寄って自然や城跡を楽しんだり、与那原の軽便鉄道の資料館を訪ね、沖縄の貴重な歴史に心を熱くしたり、ひまわり園に感動したりと、喜びいっぱいの一日でした。

神様の大きな恵みに感謝し、これからも教会員同士の一致を大切に、喜びのうちに信仰を高めていけたらと祈ります。神に感謝！

（石嶺洋子）

那覇教区子どもと女性の権利を擁護するデスク



相談窓口 ☎098-863-2020（火・水・木 13:00～17:00）

謹告 － Japan Youth Day延期のお知らせ

5月に予定していたJapan Youth Dayですが、実行委員で電話会議を行った結果、諸般の事情を鑑み、大変残念ですが、【延期】の判断をするに至りました。

なお、これはあくまで「延期」であって、「中止」ではありません。というのも、実はちょうど一年後の同日程、つまり2021年5月2日（日）～5日（水）に【延期開催】する方向で、早速私たちは動き出しています。

プログラムに関しては基本的に、今年やる予定だった内容を踏襲するつもりですが、さらに練り、充実したものにしていこうと思っています。実行委員としては、図らずも準備期間が1年以上も余分に与えられたことを逆手にとって、この期間を有効に活用して、日本の教会や青年活動を（一過性ではなく持続できるものとして）盛り上げていけたらと意気込んでいます。

一旦仕切り直しという形にはなりますが、ここまでの事情をどうかご理解いただいた上で、協力の継続をご検討いただけますと幸いです。祈りのうちに！

訃報

◆開南教会
ヨゼフ　山入端　朝作　様
二〇二〇年二月二十八日帰天　享年九十五歳
テレジア　国吉　春子　様
二〇二〇年二月二十九日帰天　享年九十二歳
アンナ　比嘉　ヨネ子　様
二〇二〇年三月二十七日帰天　享年九十五歳

◆コザ教会
ヨゼフ　大嶺　光夫　様
二〇二〇年三月十八日帰天　享年七十三歳

◆首里教会
マルティヌス　長岡　明　様
二〇二〇年三月二十八日帰天　享年八十八歳

◆与那原教会
ヨハネ　中村　利喜　様
二〇二〇年三月三〇日帰天　享年七十九歳

葬祭の「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥掘町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
http://w1.nirai.ne.jp/yasurai
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～

葬典社（そうてんしゃ）

＊創業30数余年・・・。
＊皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
＊ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

（実務担当）比嘉（ひが）　高茂（たかしげ）

24時間受付

☎098-853-1059（てんごく）